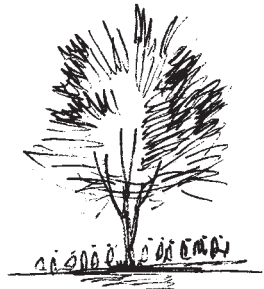


# 光の子



No.188 2018.12.25

●年間聖句 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。  
(ヨハネによる福音書12章24節より)



「受験生への贈りもの」

表紙絵・中島由起子

「初詣」

交番の赤き灯もお元日

去年今年傘立に杖寄り添へる

存分に鳴いてそれきり初鴉

サーフボード乗り込んでくる  
初電車

湖のひかりを背に初詣

初富士へ舵を切りたる

ヨットかな

雨脚を見てゐる冬の遍路かな

黛まどか

# 荒れ野に、砂漠に、道は開かれる

日本基督教団北本教会牧師  
聖学院大学名誉教授 阿部 洋治

主イエスが、ガリラヤ湖の南東部の異邦人の住むデカポリスという地方に伝道にでかけられた時のことです（マルコ8・1〜10）。噂を聞いた大勢の人々が集まって来ました。主イエスは、彼らの話に耳を傾け、教えたり、手を置いて癒したりしながら三日間を過ごしました。話を聞いてもらい、癒しを与えられた群衆は、主イエスから離れがたく、空腹のままそこに滞在し続けたようです。

これに気づいた主イエスは、弟子たちを呼んで言いました。「群衆がかわいそうだ。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、食べ物がない。空腹のまま家に帰らせると、途中で疲れきってしまうだろう。中には遠くから来ている者もいる」（8・2〜3）。しかし、弟子たちは答えました。「こんな人里離れた所で、いったいどこからパンを手に入れて、これだけの人に十分食べさせることができるでしょうか」（8・4）。

ここには、私たちも常に己れ自身の問題として受け止めなければならぬ弟子たちの姿が浮き彫りにされています。主イエスは助けを必要としている群衆の姿を直視しておられます。三日間も食べていない。遠くから来た者もあり、このまま人里離れたところを旅して行くなら途中で疲れ果ててしまうと群衆の姿を見ておられるのです。これに対して、弟子たちは自分たちが今置かれている状況を直視するのです。こんな人里離れたところで、こんなに大勢の人々を養うパンを入手することは不可能だ。

主イエスは、もちろん、今人里離れた場所にいること、これだけ大勢の人々を養うパンを入手することの難しさを知らなかつたわけではないのです。状況がどうであれ、目の前の助けを必要としている人々のことを考えておられたのです。「この人たちを何とかしてあげなければならぬ」という熱い思いが

あつたのです。因に、「群衆がかわいそうだ」（8・2）の「かわいそう」には「スプラグクニゾマイ」という動詞が当てられていて、人々の悲惨な姿をほらわた深くに感じ取り、何とかしないではいられない思いに駆られたことが示唆されているのです。ですから、「群衆がかわいそうだ」と言われたのは軽い気持ちからではなかつたのです。弟子たちは主イエスのこうした熱い思いを感じなかつたわけではないと思います。しかし、弟子たちの心は現実の不可能性に捕らえられ、「どうせだめだ」、「こんなところでは何もできない」と冷え切っていたのです。

この「パンは幾つあるか」という問いかけは、「どうせだめだ」、「こんなところでは何もできない」という思いに捕らえられてしまう私たちへの問いかけを含んでおります。「本当にだめか」、「あなたにできることはないのか」、「助けを必要としている人のために心が燃えているか、それならまず、今できる小さなところから始めてはどうか。私は、わずかに七つのパンで群衆の空腹を満たしたのだ」と。

神は言われます。「わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる」（イザヤ43・19）と。この御言葉に励まされて、私たちも、主イエスと共に、荒れ野で、砂漠で助けを必要とする人々のために祈りかつ働くことが期待されているのです。



最近流涎が少なくなった。と言っても若返って、そう言ったわけではない。言いたくなかったのだが、話を進めていく関係上、自状しなければなるまい。長年の喫煙がたたって、慢性

閉塞性肺疾患

## 老いとつきあう

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

ネットでCOPDのことを調べてみると、心は沈んでいった。不治の病である。酸素ボンベを背負って、最後は呼吸困難で死ぬ、と書いてある。呼吸困難で死ぬのは苦しくて嫌だなあと

思った。私たちの老健でも、多くの人たちを看取ってきたが、呼吸困難を症状とする方には、病院に入院していただくことにしている。介護する側が、可哀想で見えられないと言っている。

しかし、しかしである。読み進んでいくうちに、軽度のCOPDであれば、進行を止めることは出来ないが、その速度を抑えることは出来る。書いてある。もちろん、気管支拡張剤は必須であり、私も毎朝吸入しているが、呼吸リハビリも有効だと書かれてある。容易に行えるものから、かなりの努力を要するものまで、種々挙げられてあるが、すぐにでもできるものとしては、口をつぼめて息を吐きだし、鼻から息を吸い込むことを繰り返す方法が目についた。すぐに妙案を思いついた。前にも触れたが、十数年前に膝関節症で膝を痛め、それ以来、医学部の教え子である主治医の言いつけを守り、二日酔いの時以外は、朝1時間あまりのストレッヂ動作を10回ずつ繰り返すのが基本だが、それに連動させて、10回の動作の中6回息を吐き出し、4回息を吸い込む呼吸法を

考え付いた。暇な老人はつまらない事を計算する。ストレッヂの動作から計算すると、1時間余りで、1680回、口をつぼめて息を吐き出し、1120回、鼻から息を吸い込んでいることになる。

これを1年近く続けてきた。その結果、頬の筋肉が強化され、流涎が少なくなったということ。もう一つ顔が変わったことがある。もともと大顔で四角い顔なのに、ますます鰹が張ってきて、自分でも人相変わったなあと思うくらいである。肝心の息切れの方は少しマシになったと思うことにしている。

何といっても生活に支障をきたすのは、もの忘れ、というよりも忘れ物である。過日、熱中、小学校の用事で東京に出かけたときの事である。最近は、これでも、勤めている老健施設、みゆきの丘で結構忙しくしている。職場から最寄りのかみのやま温泉駅に車で行き、駅の駐車場に車を置いて出かけることが多いのだが、その時も、その駅から午後3時に乗車する予定であった。ところが、お昼近くに、JR乗車券を自宅に置き忘れてきたことに気づいた(そう気づいたのが乗車する駅ではな

かった事を幸運と思わなければなるまい)。

仕方がないから、往復一時間かけて自宅に乗車券を取り戻った。乗車券を上着の胸ポケットに忍び込ませて、駅に着いた。やれやれである。と、今度はスマホを、職場の机の上で忘れてきたことに気づいた。スマホは電話代わりであり、ロータリーの幹事との迅速な情報交換のためのLINEが載っていたが、時間が間に合わない。えいままよ、とばかりに電車に乗った。スマホなど諦めてしまえば、どうということはないことに気づき、後は、得意の忘却術で事は終わりである。

それにしても、挙げるときりがないが、一つ一つの症状は、まさに認知症の初期症状と言えるもので、少しずつ増加している気配を考えると、これも、将来暗いと思わざるをえない。COPDの場合のように、進行を抑制する手立ても簡単に見つかりそうもないし――。いずれにしても、自分の老いを認めて、それとつきあっていく以外に道はあるまい。



## 「共育ちカンガルー日記」

(50) 思春期に思う

近藤みちる

最近、優希の様子がおかしい。朝食の後、決まって「体がだるい」「眠い」「動けない」と言って、ソファでゴロゴロ始める。あんなに大好きだったはずの学校にも「行きたい気持ちはあるのに体が動かない」と言って、車での送り迎えをせがむようになった。

さして思い当たる原因は見当たらない。学校生活は至って順調そのものに見えていたし、最近では習い事にも熱心に精を出していた。家でも特段変わった様子はなかった。

優希の調子自体は良いのだとすれば、単なる「電池切れ」かもしれないとも思った。これまでも優希は、充電が追いつかないほど張り過ぎて、電池が切れたように動けなくなってしまうことが幾度かあったからだ。

(大丈夫。少し飛ばし過ぎただけで、充電すればすぐにいつもの優希に戻るはず)と、最初は私も思っていた。とりあえず学校を一日休ませ、習い事も一週休ませた。仕事を減らして、出来る限り優希に寄り添うよう努めてみた。だが優希の調子はなかなか上がらず、ベッドやソファから離れられ

ない朝が続いたのだった。こんなことは初めてだった。

「優希は病気のなの？ どうして元気になれないの？」

思うようにならない自分の体に、優希自身も次第に不安や苛立ちを感じ始めているようだった。さすがの私も、これは単なる電池切れなんかではなく、もしかしたら何か大変な病気を抱えているのかもしれないと、心配になってきた。かかりつけの小児科を受診したのは、程なくしてのことだった。

「大丈夫。病気がなくて思春期ね。」

診察を終えると、先生はそう言うてにっこりと微笑んだ。

「思春期、ですか？」  
私はちよつと肩透かしを食らったような心持ちで聞き返した。確かに思春期にはホルモンバランスが変化し、自律神経などに不調をきたす子どもも多いと聞く。だが、優希がもうそんな年頃になっていたとは。

「そう、思春期ね、多分。」

先生はそう繰り返してから、改めて優希の方に向き直り、今度はゆつくりとした口調で、丁寧に優

希に語り始めた。赤ちゃんの頃から優希を診てきた先生は、優希を安心させる手立てをよく知っていた。

「優希ちゃん、心配しないでね。病気ではないのよ。優希ちゃんの体が、大人になる準備を始めたよ。うなの。優希ちゃんくらいの歳になると、みんなに起こることなの。」

大人の体になるためには、ホルモンが出て、脳からも体のあちこちにたくさん指令が出るの。大人になろう、大人になろうって体のあちこちが頑張るの。そのせいで優希ちゃんの体は、とても疲れやすくなっているの。

体だけじゃなくて、頭もとっても疲れるはず。眠いのもそのせいだと思ふ。そういう時は、とにかくゆつくり休むことが一番大切。体や頭が一生懸命に大人になろうと頑張っているんだから、優希ちゃんにはゆつくり休むことで、体と頭を応援してあげようね。」

先生の言葉を聞いて、優希は安心したようだった。先生はしみじみと言った。

「それにしても、優希ちゃんが思春期だなんてね。本当によく育ちましたね。」

確かに、よくそこまですべてくれたものである。何より、優希にも他の子と同じように等しく思春期が訪れたということが、親として素直に嬉しかった。

「思春期の嵐」という言葉があるが、きつとどの子の中にもその嵐は訪れ、激しく吹き荒れるのだらう。そうして子ども達は「自己理解」という人生初の難壁に挑んでいくのだ。自らの力で。

その後、優希の体調は相変わらずで、調子の良い日も悪い日も折り合いをつけて過ごせるようになってきている。「思春期」という新たなキーワードを得たことで、自分に起こり始めた様々な変化を受け止めようとしているのだらう。

そして変化は体だけではなく心にも表れ始めている。近頃は、随分と親に対して「ナイシヨ」や「ヒミツ」が増えてきた。これまでのように親の言いなりにはなってはくれないし、手出しや口出しも鬱陶しいようだ。

親の出番がすっかり減ってしまったようで、淋しい気持ちもあるが、きつと思春期には思春期の、親の役目や出番というものがあるのだらう。淋しがつてもいられない。まだまだ親として、もうひと皮もふた皮むけないと、思うこの頃である。

毛糸編む何も言ふまい聞くまいと

みちる



友人のTさんの家に電話してみた。

奥さんが電話口に出て「今、散歩を兼ねて図書館へ行きました」と言う。

私は、図書館の方へ車を走らせた。Tさんが歩いている所まで行って「Tさん、この車に乗りなさいよ。食事に行きましょう」と言っただけで、車に乗って戻った。

## ひまつぶしに

彫刻家 中島 睦雄

「オレが、奥さんに電話しておきますよ」と、ケイタイでTさんの家を又呼び出した。

奥さんが出たので「今、Tさんを誘拐しました。し

ばらく返しません、警察に話さないで下さいね。話されるら」と言うと、何と「結構です、どんどん誘拐してください」と言う。奥さんの許可どころか、どんどん誘拐をすすめるように

との事だった。

「Tさん、何を食べる？ソバが良いですよ。ソバが良いですよ」という事で、私は、いつものソバ屋へ案内した。

この店のソバはおいしい。何年か以前、知人に連れて行かれて、タヌキソバを注文した。出されたソバの、お汁を一口スプーンで口に入れると、これが、大変おいしかった。それから、このタヌキソバが大好きになってしまった。そこで、特に昼食の時に、このソバを食べに行く事が多い。

しかも、常にタヌキソバに決まっているものだから、店の人も「何になさいますか？」とは聞かない。私が店に入ると、店の人は「タヌキソバ」と奥に伝えるのである。

こんな訳で、去年は一年間で七十七杯食べた。何杯食べても、決して飽きない。

「Tさんタヌキソバね」と、Tさんにも押し付ける。Tさんも「やだよ」とは言わない。「あそこのソバは、うまいね」などと調子を合わせてくれる。

食後は、我が家に帰ってくる。そして、決まってコーヒーを飲む。これも決まり切ったコ

ースになっている。

コーヒーを飲みながらの話は、それこそ雑談である。

「最近のプロ野球の試合をテレビで見ているら、選手が、ガムを噛みながらプレーしている事があるね」とTさん。

そう言えば、そういう姿をよく見る事がある。あれは何だろう。事によると、ガムを噛む事によって、精神的な緊張を柔らげる事になるのだろうか。ただ、我々の古い感覚では大変無作法に見える。

それどころか、グラウンドに、ピイツと唾を吐き出す選手もいる。

「どうも、あの様な行動は、我々老人にはなじみないですね」「そうそう、その通りですよ」という事になった。

以前、私も中学生の時、野球部に入っていた事があったが、先輩の一人が、グラウンドに唾を吐いたことがあった。当時の高校の野球部の先輩が指導に来ていたので、唾を吐くところを見られて、こっぴどく叱られた事がある。グラウンドは神聖な場所なんだ、と。

ところで、その、中学生時代の事であるが、一年生は、上級生の練習で流れる。球ひろい

が主な仕事であった。

ところが、この球ひろいを、少々サボル事があった。

今度は、指導の先生から「一年生はここに並べ、向こうを向け」と言われ、左の方に体を向ける。

先生は、バットで一人一人の尻をぶつのである。これは「ケツバット」と言っただけで、時々やられた。かなり痛かったが、家に帰って家の人に話す者はいない。家の人に話せば「お前が悪いんだ」と又叱られるから。

「Tさん、コーヒー、冷めないうちに、飲んじやいませうよ」と

ということになるのであった。





「お守り」 仙道家

クリスマスおめでとうございます。

そして、謹賀新年。これまでの  
お支えに心から感謝しております。

子どもたちと入所当初の話や過去の  
大変だった頃を振り返って笑い話を  
したりする時間が好きです。その子  
にとっては、乗りこえてきた実感がある  
のでしようし、私にとっては、どんなに  
大変なこととも、いつかきつと笑い話に  
できる「お守り」を再確認できるのだら  
うと思います。

今年もいろいろなことがありま  
した。全て乗りこえられた、とか、  
乗りこえられればとは言えませ  
んし、一難去つてまた一難という  
のが現実のようにも思いますが、  
だからこそ、小さな、けれども大  
きな「お守り」を大切にしてい  
きたいと思えます。

皆様のご健康とご多幸をお祈り  
申し上げます。

(岩崎 まり子)

新しい小さい仲間 佐藤家

クリスマスおめでとうございま  
す。そして新年明けましておめで  
とうございます。

10月、私のグループに仲間が加  
わりました。2歳の豪規です。

これまでは乳児院で生活してい  
ましたが、光の子どもの家へやっ  
てきてからは一番年下となりました。

まだ言葉がはつきりせず、言葉  
でのやりとりもうまくできません。  
ん。

豪規がやってきてまもなく、中  
学2年の蒼士が、

「豪規ってあんまり笑わないね」  
と、つぶやきました。

慣れない場所で、まだ落ち着け  
ず、不安でいっぱい。笑顔が少な  
いのも当然です。唸るように声を  
あげていることもよくありまし  
た。

豪規が庭へ遊びに行くと、  
「豪規、豪規」

と、年上の子どもたちに囲まれて  
しまいます。

豪規がかわいい、かわいいがた  
い、という気持ちでだっこした  
り、頭をなでたりしてきます。た

だ豪規が遊んでいてもおかまいな  
しの時もあります。

そんな時、豪規は  
「いらない！」

と、声を張り上げて拒否。やめて  
ほしい、いやだ、という意味表示  
なのでしょう。

そんな中でも幼稚園へ通ってい  
るお兄さん、お姉さんはちよつと  
違いました。豪規と距離をおき、  
走りまわったり、豪規が遊んでい  
るのを見守っていたり、豪規が近  
づいてくると一緒に遊んだりして  
くれました。

小さい仲間と適切に距離を保ち  
接することができる幼稚園へ通う  
お兄さん、お姉さんに助けられな  
がら、これからは豪規の成長を見  
守っていきたいと思います。

(池田 祐子)

「その時」を信じて 原田家

クリスマスのおとずれを心より  
お喜び申し上げます

「何事にも時がある」と有名な  
聖書のことばが旧約聖書伝道の書  
(コヘレトの言葉)の中にありま  
す。人それぞれ「その時」は違  
いますが、いま仁は「その時」を待

ち望んでいます。

いちばん初めのクリスマスは、  
長い時間いっおとずれるかわから  
ない「その時」を待ち続けてやっ  
てきたものでした。御子イエスキ  
リストの降誕をいちばん初めに聞  
かされたのは、当時の社会で虐げ  
られた生活をしていた羊飼いた  
ちでした。真つ暗闇の心の中に希望  
の光が灯った出来事でした。

「神のなさることはすべて時に  
かなって美しい」(伝道の書《コ  
ヘレトの言葉》3章11節)。学校  
も仕事も自分が思っていたように  
うまくいかず、前向きには生きる  
ことができなかつた仁。今は羊飼  
いたちがそうであつたように、自  
分の進むべき道がわからなかつた  
としても、どんなに時間がかか  
たとしても、希望を失わずに「そ  
の時」が必ずおとずれることを信  
じてあゆみ続けてほしいと祈りま  
す。

仁にとって祝福に満たされたク  
リスマスになるように。皆様の上  
にも豊かなクリスマスのご祝福があ  
るようにお祈りします。

(穴水 祐介)



クリスマスの準備 倉澤家

ハロウィンが終わると、街はすぐにクリスマスモードになります。かぼちゃやおばけグッズがサンタクロースやツリーに変わります。そんな街のディスプレイやイルミネーションを見ると、私自身もそろそろクリスマス準備をしなければと思います。

私のクリスマス準備は、お世話になっての方たちへのクリスマスカード作りから始まります。カード作りはもう何年もやらせていただいているのですが、掃除、洗濯、食事の準備などがなければずっとやってほしい好きなクリスマス準備です。最近では加齢で(笑)夜の作業は少々つらくなってしまいましたが、今年も楽しみながら作らせていただきます。

子どもたちへのプレゼント選びも、大切なクリスマス準備なのですが、最近そこに変化を感じています。せつかくのプレゼントなので、できるだけ欲しい物をプレゼントしたいとは思いますが、ネットですしか手に入らない物を欲しがることが多く、今までのように子どもの顔を思い浮かべ、あれこれ考えながらプレゼントを探すという行程がなくなりつつあります。確かにネットでの購入は確実に手に入

り、時間短縮にもなり合理的ではあるのですが、少し寂しい気がします。

時代と共に様々な変化はありますが、「子どもたちの家のクリスマス」は健在です。今年も子どもたちと一緒にクリスマスを迎えられることに感謝!!です。

(倉澤 智子)

グループホームから考える 牧野家

この地域の小学校は登校班単位の集団登校です。本園は子どもが多いのと、近くに子どもがいる家がないため、光の子どもの家だけで2つの班をつくっています。

グループホームは、本園とは別の小学校区にある、住宅街の中の一軒家。集団登校も近所の子どもたちと一緒にです。牧野家の前が朝の集合場所になっています。他の班の子どもたちも前を通り、朝はとも賑やかです。

地域の方は、牧野家が児童養護施設のグループホームであることを知っています。地域の子どもたちも、私たちから特に説明することとはしませんが、子ども同士の会話やそれぞれの家庭の中で、牧野家が「施設」であり、家にいる大人が「お父さん」「お母さん」でないことを聞いています。

それでも同じ登校班の明日菜

ちゃん、美樹が入所した当初、私に「美樹ちゃんのお父さん？」と訊いたのでした。以前から上級生の千曉や日向とは一緒に登校しましたが、同じ学年の美樹が来たことで関心が追いついてきたのでしょうか。

ところで先日、日向に「近所の公園で遊びたいからついてきて」と言われて行くと、美樹とその友だちも同じ公園で遊んでいました。なりゆきで私も一緒に遊んでいるうちに、お互い「あれ、どこかで会ったことあるよね?」。

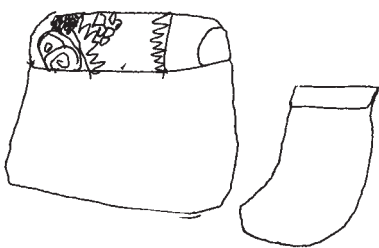
よくよく話してみると、本園にいる凛と一緒に剣道をやっていて、幼稚園では同級生だったはらちゃんでした。小学校区は分かれていても、旧大根町の幼稚園と中学校は1つずつしかないので、こんなつながりもよくあります。

本園は子どもがたくさんいて、園庭や食堂に出れば学年を越えて群れて遊ぶことができます。田んぼの中に子どもが散らばっているような校区で、放課後の子どもが行き来が難しいなか、大きなメリットではあります。一方、子どもを取り巻く人間関係が「生活空間」「学校」「放課後」が離脱困難な形で重なってしまうえば、息苦しくなってしまう可能性にも気をつけなければなりません。

本園の子どもや校区の子どもたちにも、せめて日向や美樹にとつての「近所の公園」のような場所があったなら。できることなら、前もって約束しなくても、行けば必ず誰かがいて安心できる場所。余計な干渉はしないが、あたたかく見守りかかわってくれる人。適度にひとりにしないでほうっておいてくれる環境が、家や学校とは別にあつたなら。

もちろん私たちの役割は、子どもが安心して帰ってこられる「家」と「暮らし」を、子どもと一緒につくっていくことです。それと同時に、そこに出かける子どもも、送り出す私たちも確かだと信じられる「外」をつくるためにかかわっていくことも、今後さらに果たしていかなければならない役割だろうと感じています。

(佐藤 義岳)



# 子どもたちのかがやきとともに

## — 光の子どもの家をお支えください —

イエスさまのお誕生を祝うクリスマスです。「一番初めのクリスマス」は私たちが行ったことも見たこともない、はるか遠いユダヤの小さな村ベツレヘムでの出来事でした。2千年以上前の途方もない昔の、その情景が今の私たちに繋がりここに広がります。星の輝きはどれほどだったでしょう、暗闇はどれほど深かったのでしょうか。どんなに寒かったのでしょうか。

暗闇の中の光として、最も低いところに神の子が人として生まれとてくださったクリスマスは光の子どもの家の創立の基盤であり、原点でもあります。大きな喜びですが、なぜか迎える準備の時にさまざまなことが起こり、こころ晴れやかに、という準備期間でないことが続きます。ふしぎなほど一度リセットさせられるような何かと出会います。それは私たちへのメッセージなのでしょう。寒い、暗い時こそ、ふっと温かさにうれしくなる日々、イエス様を突然身ごもった、その不安と決意を想像し、また夜通し羊の群れの番をしていた、まずしい羊飼いの疲れを知らされます。つらいこともたくさんあった子どもたちには真っ先に救い主の誕生が知らされることでしょう。

光の子どもの家のクリスマスは、いつも思い出がぎっしり積み重なっています。練習時間のほとんどない中でのページェントですが、ぶっつけ本番のような場面も含めて、その年ならではの光の子どもの家のクリスマスになります。集えない仲間も、来たくても来れない方たちとも、みんなの顔を思い浮かべつつ、お祝いしています。顔を出せない人たち、休めず働き続けている方々、どこにいるのか心配することしかできない人たち、災害や事故にあったり親しい人を失ったり、悲しい思いをしている方々と共にいることを思う季節でもあります。

皆さんとともにお祝いできることを感謝いたします。創立34年を経過し、あちこち修理、修繕箇所も増え続けてまいりました。ホッとでき、こころもからだも温めることができる暮らしの環境を整えて必要などころに必要なが満たされますようご支援よろしく願いいたします。また子どもの数が減ってもここを必要とする子どもは減ることはありません。抱えている重さはましています。今後も子どもたちの本来の輝きを取り戻すための光の子どもの家の働きを継続できますようにお祈りください。

皆様のご健康が守られ、クリスマスの豊かな祝福がともにありますように。

2018年 冬

社会福祉法人 光の子どもの家      理事長 菅原 哲男  
光の子どもの家を支える会      代 表 永野 三恵

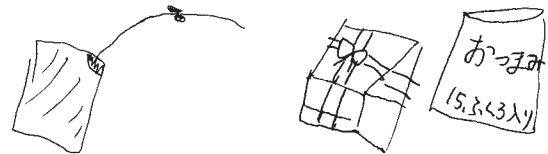
郵便振替 00130-1-128022

他銀行からのお振込み			
銀行名	ゆうちょ銀行	預金種目	当座
金融機関コード	9900	店名	〇一九店(ゼロイチキョウ店)
店番	019	口座番号	0128022





# Merry Christmas & a Happy New Year



メリークリスマス!!

クリスマスおめでとうございませう。

今年も子ども達が大ききなクリスマス!!がやってきました。

子どもたちは今から「〇〇ほしいな」「〇〇もらいたいな」と話したり、手紙に書いたり、ウキウキワクワクしています。大人たちは準備等いろいろな面であいへんですが……。

光の子どもの家では第1アドベントから第4アドベント、キャンドルサービス(24日)、クリスマス祝会(25日)とお祝いし、イエス様の誕生をみんなで祈りして迎えています。祝会には友人たちなども呼んで盛大にお祝いします。クリスマスが終わると、餅つき、大掃除、そしてお正月……。バタバタとしそうですが、子どもたちと楽しんで、ひとつひとつ乗りこえていきたいと思えます。

(岩瀬 志穂)

サンタさんをお願い

寒さが一層厳しくなってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。皆様のご支援がありまして、今年も無事1年を終えることができそうです。

テレビなどでクリスマスケーキや街並み等のコマージュが

え、子ども達もソワソワとプレゼントの事を考え出したようです。

4歳の吉尚は仮面ライダーが好きで、ベルトや剣が欲しいとニコニコと話しています。ですが本人はサンタクロースが怖いようで、プレゼントのお願いの手紙は書かないと言っていました。見た事がないサンタをなぜそんなに怖がっているのかはわからないのですが……。そんなちよつと怖がりな吉尚のお願いが、幼稚園に頑張つて通っているご褒美にサンタさんに届くと良いと、心から願っています。

(田口 貴子)

光の子どもの家のクリスマス

光の子どもの家はクリスマスをととても大切にしている。アドベント、イブの燭火礼拝、ページェントなど、祈りと祝福が中心であり、サンタさんとプレゼントだけではないクリスマスである。

ちょうど1年前の12月、卒園生2人からもらったメールには「今思うと光の子どもの家のクリスマスって良かったよね」「あの雰囲気好きだったな」と書かれていた。在園中、高校生だった2人は「クリスマスは友達と遊びたいのに!」「劇なんてやりたくないよ!」などとよく言っていたが、

卒園し、思い出として光の子どもの家で過ごしたクリスマス

を良かったと感じたのだろう。今年も、一人暮らしをしているアパートにツリーとリースを飾り付けたと、写真付きのメールがあった。今年もクリスマスまであと少し。庭のイルミネーション、影絵、キャンドル、夜みなどで集まって練習するページェント、一人一人の心に残るクリスマスになるように丁寧に過ごしていきたい。

(牧野 由紀子)

静かな夜

光の子どもの家のクリスマスイブは静かな夜に行われます。

食堂に並べられた8つのテーブルには1台ずつキャンドルスタンドが置かれ、幼児から高校生までの子どもと職員がキャンドルを囲み、一人一人が1年を振り返り、感謝の思いを順番に伝え、その度それを受けた保母さんが大好きだよ。大事に思っているんだよ。と愛の言葉をかけます。

窓の外は真っ暗ですが、食堂の中はキャンドルの灯りと愛の言葉とで暖かく、心に残る夜となります。

私が幼い頃、キリスト教の幼稚園に行っていたとき、牧師さんから「クリスマスは暗い時代に神様

がイエス様をこの世に送って下さった日」と教わりました。

中学、高校、短大、社会人と年が経つことに静かなクリスマスは華やかなパーティーとなり、「これでいいのかな」と空しさと疑問を持ちました。

光の子どもの家ではたらくようになり、本来のクリスマスを取り戻したように思います。

(佐保 浩代)

**クリスマス**

光の子どもの家のクリスマスには、みんなで過ごす礼拝と食事会があり、24日の夜にはサンタも来ます。高校生にもなれば嫌になつて、それよりは友人と会いたいというところもあるでしょう……。

私も光の子どもの家で育ちましたが、社会に出てからのクリスマスへの思い出はありません。思い出されるのは光の子どもの家のクリスマスだけです。

淋しく悲しい何もないクリスマスを何年も経験したからこそ、職員として、光の子どもの家で子どもや他の職員と過ごせることをとても幸せに思います。

(奥寺 美鈴)



**クリスマスの思い出**

ぼくは3歳から小学4年生まで光の子どもの家で育ちました。小学5年から親元でクリスマスを迎えることになったのですが、ここでのクリスマスの思い出はまったくありません。なぜなら、親元ではクリスマスを迎える準備があるわけでもなく、イエス様の生誕を祝うわけでもなかったからです。

その上、親元に引き取られてからも、光の子どもの家でクリスマスを経験することを選んできていたからです。

光の子どもの家で過ごした中で、クリスマスの思い出はたくさんありますが、その中でも一番の思い出は、岩崎(今は同僚となった「まり子さん」)がクリスマスの際に話をしてくれた「賢者の贈り物」です。内容は貧しい夫婦が互いのプレゼントのために本人たちが大切にしていたものを、手放してお金を工面するが、皮肉にも……というものです。

ぼくは子ども達にプレゼントをする際、相手を思い浮かべてから探しています。子ども達の中には、欲しいものを求めてくる子どもがありますが、その都度「欲しいものをあげるのではなく、あげたいものをあげるから」と答えています。

ぼくにとってクリスマスは、他人を思いやる自分を見つめ返す時期です。皆様にとつてのクリスマスとはいかがなものでしょうか？本年も皆様の健康を切に願っております。

(新吉屋 健太)

**我々が出来ること**

光と影、クリスマスが近づき街のイルミネーションが煌びやかになればなるほどその影の輪郭は際立ち、深さを増します。幸せな雰囲気であふれている街の片隅には必ず一人寂しく過ごす者がおり、その落差が最も色濃く反映されるこの時期。家族と離れて暮らす子どもたちに寂しい思いをさせないために我々が出来ること、それは幸せで落ち着いた時間を共に過ごすことです。

この一年も、多くの皆様のお支えによりそれらが守られてきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

メリークリスマス、そして良いお年をお迎えください！

(小西 剛史)

**クリスマスの後にも**

厳しかった暑さからいつの間にか紅葉の時期も終わり、子どもたちにとってはもうクリスマスのプ

レゼントで話が盛り上がりついています。

光の子どもの家では、素敵なクリスマスを迎える準備をします。そして、12月28日にはお餅つきがあります。子どもたちもペタンペタン杵を振り上げ、交代でお餅をつきます。お供えを丸めたり、お正月用ののし餅、そして、昼食はいろいろな種類のお餅を食堂で食べます。卒園生も大集会です。

大みそかには、新年を迎える一日のために全員でおせち作りをします。元旦当日は、みんなで盛り付けをし、10時から祝会が始まります。小さい子から職員まで1年の抱負を言ってお年玉を頂き、年の始となります。

今年も皆様のあたたかいお支えを頂き、新年を迎えられることに感謝いたします。

(平川 光子)

**私の新年の迎え方**

みなさんは、お正月を楽しく過ごしていますか。

私は正月になると、毎年家族で埼玉県川越市にある「氷川神社」という所へ初詣に行きます。この氷川神社は「家族円満の神様」「夫婦円満・縁結びの神さま」として信仰されています。縁結びと

いと恋愛のイメージですが、この一年良縁に結ばれますようにと今まで参拝しており、光の子どもの家とも出合うことができました。

正月が過ぎ落ちついた頃に所属する消防団の出初式という式典に参加します。新年に初めて市の消防団員が揃って一斉放水や伝統技能である梯子乗りなどの披露、消防労働者への表彰が行われ仲間たちと火災に対する心得を再確認し、身を引き締め一年を過ごせる様にする場であると私は思っています。

毎年この様に過ごすことで、人とのつながりの大切さを知ることができ新しい気持ちで新年を迎えることができます。皆様も良い一年をお過ごし下さい。

(関根 裕介)

### 新年の抱負

皆様初めまして、12月に入職し、4月からは指導員を勤めております橋本寛司と申します。

入りたての頃はなかなか子どもに受け入れられないことも多かったですが、今では同じ趣味を共有できるほど仲が良くなりました。特に、今年小学生になったばかりの正宗とは、仮面ライダーの話で盛り上がりがあります。

先日、「もう少しで平成が終わっちゃうんだよ」と声を掛けると、正宗が「えー、じゃあ次の仮面ライダーは何になるんだろう？橋本さんはどう思う？」と言いました。

「今の仮面ライダーは顔に『ライダー』って書いてあるから、顔に新しい年号の名前が入るんじゃない？」と答えたところ「えー、ダメ！まだ平成終わってほしくないから、顔に『平成』って書いてほしい」と正宗。思わず笑ってしまいました。

平成も残りわずかですが、ここで新任職員として新年の抱負を述べさせていただけます。自分の好きな仮面ライダーのテーマでもあります。「明るい未来をビルドする」から取りまして「今年を明るく楽しく子どもと一緒にビルドしていく」を目標に頑張っていきたいと思えます。

(橋本 寛司)

### 気持ちを伝える

メリークリスマスと新年が皆様に喜びに満ちた時間となりますように！

街はクリスマスイルミネーションが華やかな季節となりました。光の子どもの家で、3度目のクリスマス子どもたちと過ごすこ

とことができました。

私の子どもの頃のクリスマスのお思い出は、通学していた学校で24日イブの日にミサが行われ、ミサ後軽食会で友人たちと過ごす時間がとても楽しかった事です。

また、年末には母から譲り受けたおせち料理のレシピを頼りに作るのに時間を費やし、新年を迎えます。亡き母には感謝です。

クリスマス・お正月は気持ちを伝えるいい機会となります。光の子どもの家で仕事が出来てうれしです。

そして、光の子どもの家をご支援してくださる皆様様に改めて感謝申し上げます。

(湯澤 有子)

### 年の初めに

私の家ではお正月を迎えるにあたり、金平を作ったり、竹輪を昆布で巻いた大きな昆布巻きを作ったり、煮物をつくったりで大忙しです。三段重をいっぴいにして田舎風おせち料理のできあがりです。

元旦はお餅を焼いて、お雑煮やおせちを食べて、新年が始まります。

光の子どもの家では、みんな新年をにぎやかに迎えられるらしいと思います。

私は最初の初詣には、お墓に行つて先祖様に手を合わせます。今年母のいないお正月なのでとてもさみしいですが、お墓で「明けましておめでとうございます」と言つてきます。

(梅田 由味子)

### 謹賀新年

新年、明けましておめでとうございませう。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年は趣味のギターに限らず、仕事においても気持ち新たに真剣に取り組む所存でございますので、変わらぬ御指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年も皆様御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

(福島 文明)

### ごあいさつ

明けましておめでとうございませう。本年も皆様健康でありますようお祈り申し上げます。

(五木田 供三)

現場から

## オーダーメイドの養育を

臨床心理士 積 みどり

私が光の子どもの家ではたつき始めて17年が過ぎようとしています。多くの子どもたちに出会わせてもらっていますが、どの子どもも自身の抱える運命とそれに伴う「生きにくさ」を背負っています。そのような子どもたちと共に生きようとする私たちが、途方に暮れて立ちすくむしかできない状況になることが年々増えてきているように感じます。

人を傷つけても罪悪感を抱けない子（すでに自身の傷つきがあり、周囲を傷つけるのは自分を守ろうとしているのかもしれない）、やりたいこと以外のことをやれない子（やらされることは侵襲されていることのように感じるのかもしれない）、自身の身を守ることができない子（安全でも寂しいのはイヤ、危険があっても自分だけを見てくれる存在がほしいと思うのかもしれない）など、その子自身は必死で生きているだけなのに、社会の中では

問題と見なされてしまっています。そのような子どもをどうやって社会的自立に向けて育むことができるのか。先が見えないような思いになることが度重なっています。

ここでは「自分は大切な存在だ」という感覚を根付かせ、彼らが社会の中で生きていくエネルギーを備え、そして自分の人生を堂々と歩めるようにという思いで子どもたちと共に暮らしを作っています。しかし、穏やかな暮らしの中で、肯定的に受け入れてもらいながら養育されるだけでは、子どもたちの心の叫びから出てくる問題行動を修正しきれないことも多々あるのです。

ここにやってくる子どもたちは皆、居場所が欲しい、安心して生活がしたい、成長したいという欲求を持っています。しかし、安心させようと思って抱っこをしても、それを安心と思えない、むしろ緊張してしまう子どもがいます。居場所となるた

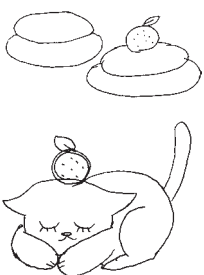
めに築く特定の職員との関係が、近すぎて怖いと感じさせてしまうこともあります。子どもの意思を尊重するために最低限のルール設定にしていることが、逆に混乱につながってしまいう子どももいます。良かれと思つて行う関わりが、必ずしも子どもの養育にもフィットするわけではないことが本当に難しいと感じます。

なので、私たちはその子どもがどんな経験をしてきているのか、どんな場面でどんな言動や表情があるのか、何が得意で何が不得意なのか、いつホッとできるのか、何が怖いかなど様々な情報を集めてその子ども全体の像を立体的に見立てようとしています。そしてまたその子に対して自分たちができることは何か、自分たちのキャパシティを見立てることも大切なことです。そうやって一人一人の子どもに合った養育、つまりオーダーメイドの養育を行うことが今、求められるようになっていっていると思います。

ただ、ここでは集団で生活をしているので、集団としてのルールやプログラム、時間の流れなどがあり、個別の養育は難し

いと思われがちです。私はむしろ、集団だからこそ多様性に対する可能性は開かれていると思っています。現に、今も難しい状況の子どもに対して個別の対応がたくさん工夫されています。

例えばスマホやタブレットの使い方や中学卒業以降の進路指導、自立支援、そして実家としての関わりなどは、原則として通底するものはあるものの、それぞれ職員も子どもも試行錯誤を繰り返しています。そうやって作られたそれぞれの「特別扱い」に対して、一人だけ甘やかしているなど不満が出ることももちろんあります。どの子ども「個人としての自分」を見ても「個人としてのおさまると思えません。社会の様相がどんどん変化している中ですが、「家庭的な養育」を土台にした上で、「オーダーメイドの養育」を行い、それぞれの子どもが自分らしく生きられることを目指していければ……と考えるようになっていっています。



現場から

## 慌ただしい日々の中で

遠藤 恵里香

日増しに寒さが身に染みるようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

子どもたちはそれぞれ運動会、体育祭、文化祭と慌ただしい日々を送っていました。

幼稚園では大運動会がありました。年中の菜々は、幼稚園から帰るとすぐ、「今日はかけっこで一番になったんだよ！」と嬉しそうに話してくれました。

かけっこの本番、菜々は名前を呼ばれると元氣よく返事をし、「よいい」の掛け声とともにきちんとしたフォームで構えました。ピストルの合図で一目散に走り出し、見事4人中1着でゴール！幼稚園での運動会練習と、帰宅後の鬼ごっこの賜物でしょうか(〃>>\*)

昨年度初めて参加した運動会では、「よいい」の構えもピストルの反応も上手くできず、5人中5着でした。それを思うと、菜々の成長を改めて実感します。運動会を終えた今でも、菜々のかっこっこ動画を見返しては感慨に浸っています(●・・●)

中学1年の楓は、中学校に入ってから初めての文化祭を経験しました。合唱コンクールも同時に開かれ、クラスごとに歌います。

歌うことが大好きな楓は、テノールのパートリーダーを任せられました。担任の先生からは、率先して皆に声かけをして練習に励んでいたと聞き、とても頼もしく思いました。

ある日、帰宅した楓から「俺クラス合唱でソプラノやることになった」と話がありました。

私が「えっ楓くんテノールのリーダーやってるんじゃないの!?!」きくと、楓は「テノールのリーダーはそのまんまでなんかソプラノに移動になった」とあつからかんと言うのです。私は予想外の展開に啞然としてしまいました。確かに楓は変声期も迎えていません。カラオケでは原曲キーでAKB48の「365日の紙飛行機」を歌って100点を出したこともあるほど、きれいな高音が出るのです。そのことを思うと、ソプラノパートを任せられた

ことにも納得でした。

文化祭当日、楓のクラスの合唱を聞きに行くと、ソプラノパートの端に一人だけ学ラン姿の楓がいました。一生懸命に大きく口を開け、素敵なハーモニーを作り上げていました。きつとソプラノパートを任せられるのは今回が最後だろうと思いつつながら合唱に耳を傾けていました。

今でも、学校から帰宅後、米津玄師×DAOKOの「打ち上げ花火」や「Lemon」を、持ち前のハイトーンボイスにピブラートを利かせながら聞かせてくれます。耳に焼き付けておこうと思います(●・・●)

あわただしい日々がひと段落したかと思えば、あつという間に世間はクリスマス一色。私とはある場所でサンタさん専用ポストとポストカードを入手し、子どもたちに「サンタさんへお手紙を書こう」と話しました。

女の子たちが乗り気になって、それぞれ自分の欲しいプレゼントを手紙やカードにしたため、専用ポストに投函しました。意外なことに、みな一樣にラジコンをリクエストしていました。

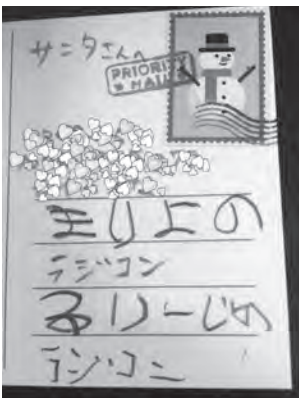
光の子どもの家では、クリスマス

マスイブの夕食後、キャンドルサービスをします。子ども、職員が普段なかなか言えていない感謝の思いをお互いに伝えあう良い時間となっています。キャンドルサービスが終わると子どもたちはそそくさと準備を済ませ、いつサンタさんが来てほしいように、いつもより早く眠りにつきます(〃□、〃□)。

翌朝、いつもより早く起き、すぐさま枕元に置かれたプレゼントを確認(〃・・〃)。

子どもたちどうし何をもらったのかを話し、朝食が済むと早速お互いのプレゼントで一緒に遊び始めるのです。毎年その光景をほほえましく見えています(〃・・〃)

リクエストしたプレゼントが無事皆のもとに届き、楽しいクリスマスとなるように、そして、穏やかな新年を迎えられることを祈っています。



## 誰のための利益

理事長 菅原 哲男

今年の終わりが見え始めた頃、日産自動車の業績をV字回復させたゴーン前会長の逮捕という超特大のニュースが世界を驚かせた。

日産自動車という日本の企業を持つだろうしがらみの外側から来たゴーン容疑者は、日産リバイバルプラン（NRP）を策定して大ナタを振るつた。2万3千人の従業員数削減、5300億円の資産売却。大量の血が流れた。

削減された2万3千人の労働者の多くには家族があり、暮らしがあつただろう。それを破壊して何の利益だろうかと思うのである。アダムスミスは企業の倫理として「神の見えざる手」を説いた。この視点を見失つたら、企業や事業にあるべき社会的意義や責任も無くなってしまうだろう。

ゴーン容疑者の犯罪は、自らの報酬額の虚偽記載というものである。門外漢から見れば全く何のこともだか分りかねるの体なのだが、たくさんの社員とその家族に大変なマイナスをもたらしたのだからその責めは負わなければならぬだろう。クビにされて路頭に迷った者も多くあつただろう。

そのような人々に心を致さないのが企業や職場の論理、あるいは倫理なのだろうか。

ゴーン容疑者自身が半ばそれに気づいていると思える報道があつた。彼は自らの報酬の虚偽記載の理由を、あまりに多額の報酬を公表することが、社員や社会を刺激するのでは無いかと危惧した、というようなことを述べたそうだからだ。（12月7日朝日新聞）

企業活動のことは皆目見当もつかない当方だが、なんとも血なまぐさいはたらきであることだ。

コストカッターとして賞賛される企業の論理は譲るとしても、切り刻んだのはコストと言われるものではなく、人の暮らしと家族の存在そのものだろう。言い換えれば人間カッター、あるいは人間性カッターといえるだろう。

職場で子どもは育たない、と言いつつ続けてきた。児童養護施設などの児童福祉分野でも職場化は鳴りを潜めることも無く浸食し、そのほとんどを覆い尽くしているのが現状だろう。いわゆる3交代勤務、勤務時間の短縮などなどである。

私の尊敬してきた神奈川の施設でも正視できないほどの職場化が進行しているという。

年間の休日数の違いがはたらく人々を引き裂くようなことどもである。

労働時間の短縮は労働者にとって正当な命題である。一緒に暮らして行きたい願いを持つ2人あるいは数名が、一緒に住み暮らすことを決意したのが家族形成の原動力なのである。そのような家族に代わって子どもを養育することを自らのはたらきにする覚悟をしなければ、児童養護施設での養育に関わることは、その関わりそのものに瑕疵を生じさせるだろう。子どもたちと一緒に居る時間をできるだけ短縮して何の児童福祉だろう。一緒に居たくないことを自白して！

子どもは暮らしの中で成長していく。その暮らしの水準を向上させ、意味深く豊かにしていくことが児童養護施設の養育に関わることである。

社会福祉法人光の子どもの家は、子どもたちや家族への指導が混乱しても、決して措置変更や追い出しなどをしない、職員を解雇しないことを運営のキーワードにしてきた。

創立以来35年目を目前にしてこのことは守って来たことを、関わ

った職員共々確認することができ

る。もちろん、ほとんど暮らしを接してきているので、側に居ることを疎ましく思い、また思われただろうことは思い当たることが多々ある。

暮らしを接することの残酷さについては言を俟たない。前述したようにずっと一緒に居ることを決意した複数の者たちが暮らしの中で、衝突し、違いの多さに途方に暮れたことも多いし、暮らしを接することでそれが鋭く傷つけることを経てきた。

児童養護施設で暮らしして50年を超えた。そんな中でどんなに多くの人々を痛めつけたことだろうか。

私も痛んだし、痛めつけたことがなんとも多かつたことだろう。そのように、暮らしをともにするには、赦し、赦されることが必須のことである。

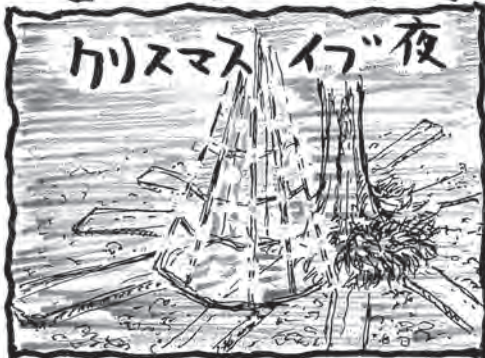
ともに居ることは赦されなければ成り立たないのだ。

多く赦されることが相互に愛し愛されることなのだ、と思う。

時はクリスマス！多く赦されることは多く愛されることでもあるのだ。

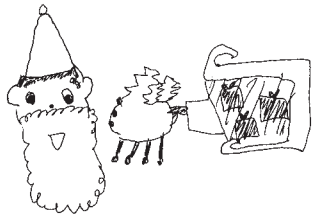
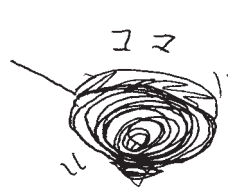
ともに赦し合いながら、人類の最大の利益である純白のイエスを受け入れよう。ノエル！

# ホニワかどく



かど松

# ホニワかどく



## MERRY CHRISTMAS & HAPPY NEW YEAR

今年も大変お世話になりました。新年が皆様にとって良いお年となりますようお祈り申し上げます。**2019年6月8日**（第**2**土曜日）に『小さくても大バザー』を予定しています。物品のご提供よろしくお願ひします。

～光の子どもの家バザー実行委員会～

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2018年7月～11月

- 2018年11月現在  
幼児6名 小学生10名 中学生9名 高校生8名 他2名  
計35名
- 7月
  - 3日 光の子どもの家後援会、しずくの会合同バザー反省会 感謝
  - 4日 光の子どもの家後援会によるがんばろう会  
手打ちうどんを作ってください 感謝
  - 9日 7月生まれの誕生会
  - 13日 性教育ファシリテーター足立泰代氏による「性」についての施設内職員研修
  - 20日 夏休み突入。オープニングパーティー 中高生中心に企画実施 感謝
  - 23日～25日 夏期行事 小学生高学年が千葉へ。銚子のイルカウォッチング&海沿いハイキング
  - 26日～28日 夏期行事 小学生低学年が群馬県へ。赤城の地蔵岳登山
  - 29日 コンパスナビ、東京スター銀行、埼玉県子ども安全課による中高生対象「自立後のお金の使い方」講座 感謝
- 8月
  - 4日～6日 夏期行事 倉澤家、牧野家合同で千葉へ。海水浴、登山
  - 6日～9日 夏期行事 原田家、佐藤家合同で栃木へ。自然体験
  - 7日～11日 夏期行事 仙道家、秋田へ。海水浴、抱返り溪谷
  - 8日 (株)アイビーシーエス様のご招待で大相撲渋谷青山学院場所へ 感謝
  - 12日 温泉同好会
  - 13日～16日 お盆 多数の卒園生が来訪、宿泊し夏の休暇を過ごす
  - 17日 東大宮教会夏期学校で中高生が藤城清治美術館那須高原へ
  - 18日 開成学園の齋藤幸一氏、宮本一弘氏、理事の稲塚由美子氏、佐野東高校の小泉旬子氏による化学実験教室開催 感謝
  - 21日 8月生まれの誕生会
  - 23日 健康診断
  - 25日 性教育ファシリテーター足立泰代氏による高校生女子対象「性」についての研修
  - 31日 6月より生活を共にしたカルフォルニア大学研修生2名とお別れ  
消防署立ち会い通報避難訓練実施  
毎年恒例福島力氏によるポートレート撮影 感謝  
長かった夏休みも本日まで 夏休みさよならパーティー 中高生中心に企画実施
- 9月
  - 5日 渡部かずき君祈念礼拝 卒園生や同級生の方も参加
  - 10日 婦人保護施設いずみ寮との合同研修会 横田園長、坂本心理士来訪
  - 14日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝  
9月生まれの誕生会
  - 17日 東洋英和女学院大学より実習生
  - 21日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
  - 22日 イートアンド株式会社(大阪王将)の方々が来訪し

- 子どもたちに食の講習、餃子作り体験、餃子をご馳走してくださる 感謝
- 27日 小平市民生委員23名来訪見学
- 28日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝  
消防設備電気点検
- 29日 温泉同好会
- 30日 通報避難訓練実施
- 10月
  - 7日 日本青少年音楽芸能協会主催、北原有氏(笛師九兵衛)による笛作りと演奏体験 感謝
  - 10日 大利根地区赤十字奉仕団による除草作業 感謝  
光の子どもの家後援会によるうどん会 感謝
  - 12日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
  - 15日 日本社会事業大学の藤岡孝志氏による施設内職員研修 感謝  
10月生まれの誕生会
  - 19日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
  - 26日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝
  - 28日 日本青少年音楽芸能協会主催、北原有氏(笛師九兵衛)による笛作りと演奏体験 感謝
- 11月
  - 3日 第119回理事会、2018年度評議委員会、第34回感謝の集い開催 お越し下さった方々に感謝 卒園生も手いに来訪
  - 9日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
  - 15日～16日 一般社団法人日本塗装工業会埼玉支部による食堂の塗装 感謝
  - 16日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
  - 17日 日本青少年音楽芸能協会主催、山田とうしさんによるパントマイムワークショップ 感謝
  - 23日 日本青少年音楽芸能協会主催、ましゅ&Keiさんによるミュージックベル体験 感謝
  - 30日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝  
通報避難訓練実施

<寄贈者各位> 東埼玉バプテスト教会 光の子どもの家後援会  
高橋会計事務所 古河農友会 (有)マルキチ物産  
(株)アイビーシーエス カットハウススギノ 秋葉 萩原  
鈴木宏子 矢島敏夫 齊藤尚子 (株)カサモ関口商店  
櫻井秀夫 小池みどり (株)藤沼畜産 小田切末由美  
相崎伸子 水戸中央教会 大橋清栄 根本勝美 鈴木史乃  
宮田高見 鈴木美保 鈴木宏子 太田百合子 小林くみ子  
市川千代子 愛足るベジタブル 白ゆり美容室 大友孝子  
井出勝美 神田耕吉 松本明子 杉山和俊 伊村幸子  
鴨川会 高久容子 岩槻教会 全国シャンメリー協同組合  
鎌倉魅菜 仙道喜美子 浅倉桂子 他多数皆様

<ボランティア各位> 山田智 山田裕子 岡本有代 向井進  
山田義人 常松洋介 櫻井秀夫 加藤瑠海 丸山裕己  
特定非営利活動法人日本青少年音楽芸能協会 北原有  
鎌田洋子 島崎静子 他多数の皆様

今年も沢山の方々に大変お世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願いします(黒川)

////// 反 射 光 //////////////

「下総皖一さんへ」と書き出し、「中島睦雄さんへ」と書きななす。「下総皖一を偲ぶ会」会長の特別授業があった日のできごと。(義)

9月11ページができるまで。10月30日の職員会議で配った「職員原稿執筆のお願い」より▼(引用始)「光の子」188号の原稿執筆をお願いします。今号は、クリスマスと新年をあわせた増量版です▼250～400字程度で、「クリスマス」「新年」につながるのある文章をお願いします。例えば、「新任職員、新年を迎えあらためて抱負を述べる」「自分が子どものころの思い出」「1985年、光の子どもの家の初めてのクリスマス」「サンタクロースを捕まえたくて眠らない子どもたち」「年中行事としての初詣」「仙道家のこたつで寝正月」「子どもに人気の餅の食べ方」など……(引用終)▼今号のカット絵は子どもに描いてもらいました。ただし、1つだけ大人の描いたものが。誰がどれを描いたのでしょか▼余談。ある日の日向の宿題は感想文。「下総皖一さんへ」と書き出し、「中島睦雄さんへ」と書きななす。「下総皖一を偲ぶ会」会長の特別授業があった日のできごと。(義)